

特 集 1

# 「JXTG Technical Review」 新会社発足記念号によせて

JXTG エネルギー株式会社 代表取締役 副社長執行役員 ひろせ たかし  
廣瀬 隆史



平素は弊社製品をご愛顧賜り、誠にありがとうございます。

私は旧東燃ゼネラル石油(株)の出身ですので、初めて「JXTG Technical Review」に寄稿させていただくことになります。50年以上の長い歴史を持つこの技術情報誌を通じて、読者の皆様とのコミュニケーションが図れることを大変嬉しく思っております。

この誌面を拝借して、統合新会社であるJXTG エネルギー(株)の技術開発について、私の考えの一端を述べさせていただきますと思います。

2014年に経済産業省から公表されたエネルギー基本計画では「S+3E」(Safety:安全性、Energy security:安定供給、Economic efficiency:経済効率性の向上、Environment:環境への適合)をバランスよく実現するための政策の方向性が示されております。エネルギー企業において、将来を見据えた技術開発の戦略を構築するにあたっては、この基本計画を踏まえた事業環境予測を行うことが肝要です。

国内のエネルギー供給においては、昨今の石油製品需要の減退の中で、石油の役割は少しずつ変化しつつあるものの、今後も石油が日本のエネルギーの生命線であることに変わりはありません。日本という国を人間の身体に例えると、エネルギーの製造は心臓にあたり、その供給や物流は血管に相当すると考えられます。この心臓、血管を健全に保ち、さらには強靱にすることが、我が国の持続的な発展には必要不可欠であり、この点において、技術開発が大きな役割を担っていると考えております。エネルギーの製造のみならず、供給・物流までを含めたサプライチェーン全体において、新しい技術の開発が今後ますます重要になってくると考えており、また、期待しているところでもあります。

さて、今回の経営統合にあたって、新会社としてまず取り組まねばならないことは、統合シナジー効果を着実に早急を実現することです。特に石油精製販売のサプライチェーンにおいては、シナジー効果創出についての非常に大きなポテンシャルがあります。製造技術の分野では、今まで両社が長い歴史の中で築き上げてきた石油精製装置

の運転や保全の技術を組み合わせることで、さらに上のステージに立てるのではないかと期待しております。他方、ガソリン、灯油、軽油をはじめとする様々な製品については、両社の製品開発技術を持ち寄り、融合させることで、より優れた製品となるのではないかと考えております。また、これらの製品規格を迅速に統一することで、全国の製油所・油槽所から消費地に効率的に輸送できることとなり、物流網全体でのコストダウンに繋がります。

こうした統合シナジー効果を迅速に、徹底的に追求することにより、新会社の競争力強化を進めてまいります。一方、安定供給を維持・向上させ、効率化を図ることが、「エネルギー基本計画」の理念でありますので、安定供給は常に念頭に置いて進めてまいります。これは、弊社のみならず、石油業界全体の重要課題であると認識しております。

先に述べました統合シナジー効果の実現に向けたキーワードは、「変革」と「危機意識」の2つです。国内の石油製品需要の漸減とアジア近隣諸国の成長に代表される事業環境の急激な変化は、もはや既定路線であり、我々はこの変化に対応していかねばなりません。このためには、我々自身が「変革」する必要性を強く認識し、これに「危機意識」をもってあたっていく必要があります。弊社も、経営統合により体力を得たと安閑としていられる状況ではありません。従前の考えの踏襲をよしとせず、「変革」の精神で物事にあたっていく必要があります。特に、技術開発の分野においては、新技術をどのように利用していくかの視点が重要であり、新しい発想で、新しいビジネスの創造にも取り組んでまいりたいと思います。

最後になりますが、私どもJXTG エネルギー(株)は、今回の経営統合を、今まで以上に社会に貢献するチャンスであると捉えております。一層盤石な供給販売体制を構築し、お客様に、より高品質で安価な製品を安定的に供給していくことで、これまで以上に社会に貢献していけるものと考えており、これを実践するべく、技術面からも、お客様満足度の更なる向上に取り組む所存です。

今後とも、皆様には、旧来にも増しての一層のご指導とご鞭撻を賜りたく、よろしくごお願い申し上げます。